

令和4年度 学校自己評価システムシート（県立春日部工業高等学校）

目指す学校像	あらゆる教育活動をとおして「技を磨き心を育む」教育を実践し、SDGsの達成に貢献できるタフで人間性豊かなスペシャリストを育成する。
--------	---

重点目標	1 確実な学力の定着を図るとともに、学習全般をとおして技術の力で持続可能な社会を創造できる能力を育成し、進路実現を行う。 2 生徒指導、学校行事、部活動をとおして、タフな心と他者と協働する力を身に付けるとともに、公正さや人権感覚を醸成する。 3 地域の教育資源を活用した実践的教育を推進し、生徒の社会参画意識を醸成する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)		実 施 日 令 和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策	
学校関係者からの意見・要望・評価等								
1	【現状】 進路実現に向け、課題研究や資格取得に対し、積極的に取り組む生徒も多い。 【課題】 新学習指導要領を年次進行で確実に実施するとともに、生徒全員が理解できる授業を目指し、ICT等も有効活用しながら授業改善や家庭学習の習慣付けに取り組む必要がある。	新学習指導要領の円滑な展開と、観点別評価の適切な運用を図る。 生徒の授業理解度を向上させ、授業改善につなげる。	①年間指導計画書に評価の3観点を示し、校内で進捗状況を把握するとともに改善につなげる。 ②観点別評価について、三者面談等を活用し生徒・保護者に理解を得る。	①円滑に実施することができたか。 ②生徒・保護者から理解を得られたか。				
2	【現状】 生徒会行事や部活動が盛んで、来校者への挨拶や清掃活動など概ね良好である。 【課題】 多様化する生徒へ対応するため個々の生徒理解を深め組織的な生徒指導を行う必要がある。生徒の誰もが満足感を感じられるように、日頃の学習や学校行事や部活動の充実を図る。	多様化する生徒に対し生徒理解に努め、細やかな指導体制の推進を図る。	①SCや巡回支援員を積極的に活用し、生徒に寄り添った学習指導や生徒指導を行う。 ②生徒の主体性を大切にし、学校行事にSDGsを取り込む。	①SC等の相談件数 ②各行事をSDGsに関連付けて取り組めたか。				
3	【現状】 保護者への情報発信と感染症対策を講じながらの地域連携は充実している。 【課題】 成人年齢引き下げに伴い地域の教育を活用し社会参画意識を醸成する必要がある。生徒の活動の様子を積極的に情報発信することで、地域や中学生及びその保護者に対し工業高校の魅力の理解促進を図る必要がある。	積極的な情報発信と地域や企業と連携し、生徒の社会参画意識を向上させる。	①地域や外部人材との交流を通して、生徒のコミュニケーション能力の向上と自己肯定感を醸成する。 ②春工見学会等で中学校の生徒・保護者・教員に本校の魅力を伝える。 ③保護者に対し、きめ細かな情報提供を行う。	①地域交流や外部人材活用の実施回数 ②各科の入学志願者倍率1.1倍以上 ③「本校からの情報提供は十分に行われている」という保護者の割合90%以上				